５　スポーツを活用した地域の活力づくり

目標　　スポーツと地域の特性を活かした千葉の魅力発信

（１）プロスポーツを活用したスポーツの推進　（☆ 新たな施策）

①　現状と課題

本県では、千葉ロッテマリーンズ（プロ野球パシフィックリーグ）、柏レイソル、ジェフユナイテッド市原・千葉（プロサッカーＪリーグ）、千葉ジェッツ（プロバスケットボールｂｊリーグ）、バルドラール浦安フットボールサラ（日本フットサルリーグ）等の日本のトップレベルのチームが各リーグに所属して活動しています。

各チームのホームゲームの開催により、我が国トップレベルの競技観戦が身近なものとなり、「みるスポーツ」という新しいスポーツ文化の定着をはじめ、地元チームの活躍が地域を元気にし、また、地域がチームを支えるという相互関係ができつつあります。

また、県内の企業に所属し、各種大会で活躍している社会人の競技者やチームは、本県の競技力向上において、大きな戦力となっています。さらに、プロスポーツチームによる、学校、地域、スポーツ少年団等との交流や地域貢献活動は、子どもたちに夢を与えるとともに、地域密着を目指す各チームにとっても意義ある取り組みです。

しかし、プロスポーツチームやトップアスリートと学校や地域をつなぐシステムが構築されていないため、その取り組みが十分とは言えない状況です。

②　取組の方向性

ア　プロスポーツチームと学校や地域をつなぐシステムの研究

イ　プロチームによる学校、地域、スポーツ少年団等との交流や地域貢献活動の推進

ウ　プロチームや本県のトップアスリートによる青少年の競技力向上や地域の活性化

③　具体的な取組

ア　プロスポーツチームと学校や地域をつなぐシステムの研究（☆ 新規事業）

プロスポーツチームによる学校や地域のスポーツクラブでのスポーツ教室等の開催、講師の派遣等を支援します。

また、プロスポーツとアマチュアスポーツとの連携・協力を図るための連絡・協議が進められていることから、県としても、連携を図り、今後の方向性等について研究をします。

イ　プロチームによる学校、地域、スポーツ少年団等との交流や地域貢献活動の推進（☆ 新規事業）

関係機関と連携・協力し、県民との交流やスポーツの楽しさや喜びを体験するイベントの開催、子どもたちへの指導や普及活動など、プロスポーツチームが取り組む地域貢献活動を推進します。

ウ　プロチームや本県のトップアスリートによる青少年の競技力向上や地域の活性化への取り組み　**（☆ 新規事業）**

千葉ロッテマリーンズ、柏レイソル、ジェフユナイテッド市原・千葉、千葉ジェッツ、オービックシーガルズ、バルドラール浦安フットボールサラなど日本のトップレベルの選手やコーチ並びに国体等で活躍している本県のトップアスリートが実技指導を行う「スポーツ教室」など、トップ選手との交流を通した青少年の健全育成や技術の向上を図ります。

また、各チームのホームゲームにおける試合観戦では県内外から多数の観客の来訪が見込まれることから、観客に対する千葉県観光のＰＲや地域物産品、グッズの販売等、様々な経済効果及び地域の活性化につながる効果的な千葉県の情報発信を図っていきます。

（２）豊かな自然を活かしたスポーツイベントの活用による千葉の魅力発信（☆新たな施策）

①　現状と課題

自然等の地域の特性を活かしたスポーツ活動の場の充実を図ることは、県民の多様化するスポーツニーズへの対応や交流の場の創出、また、スポーツを通しての地域の活性化に寄与する上で、大きな意義を有しています。本県は、四方が海と川に囲まれ平野が多いものの、県土の２割が森林で占められ、山あり海あり川あり多様で豊かな自然は、マリンスポーツをはじめ国内でも有数のアウトドアスポーツのフィールドであり、本県の貴重なスポーツ資源でもあります。

平成２４年４月に２０１２ＡＳＴＣトライアスロンアジア選手権大会が館山市で開催されます。この大会は、ロンドンオリンピックアジア大陸別代表選考会を兼ねた国際大会であり、日本をはじめとするアジア２５カ国から約１，０００名の選手が参加します。

また、平成２４年１０月に開催予定のちばアクアラインマラソンは、「スポーツの推進」と「千葉県の魅力の発信」を２本の柱として開催し、多くの人たちに千葉県と東京湾アクアラインの魅力を知ってもらうことで、地域間交流の拡大による地域の活力づくりを目指すものです。

さらに、千葉県では、全国一平均標高が低く、首都圏にありながら温暖で豊富な観光資源に恵まれているという地域特性を活かし、サイクリストを対象とした「サイクルツーリズム」[22)]を推進しています。また、全国のサイクリング愛好者を迎え、房総の自然の中を自らの体力と気力で走ることを目的としたツール・ド・ちばが開催がされているなど、本県は多くのサイクリストが集う環境にあります。

今後は、市町村等と連携し、トイレなど施設・設備の整備をはじめ、スポーツと観光を組み合わせたプログラムを開発するなど、地域の特性を活かした活動の場として質の向上に取り組むとともに、県内の豊かなスポーツ資源が多くの人々に利用されるよう、広報活動の充実を図ることが必要です。

② 取組の方向性

ア　スポーツ大会、スポーツイベント等の開催の推進

イ　県外の大学生や高校生のスポーツ合宿等の誘致

ウ　地域のスポーツ情報提供

③ 具体的な取組

ア　地域によるスポーツ大会、スポーツイベント等の開催の推進　（☆ 新たな施策）

・ちばアクアラインマラソン（☆ 新規事業）

千葉県が主導する初めての市民マラソンとして、平成２４年１０月２１日に木更津潮浜緑地公園をスタート、東京湾アクアライン海ほたるを折り返し、袖ケ浦市内を経由、木更津市役所にゴールするフルマラソンを開催します。

この大会の参加者は、１５，０００人ですが、その家族や応援者等を含め約３万人が県内のみならず県外から来場することが見込まれることから、千葉県の魅力を全国に発信する好機でもあります。そのため千葉県全体を視野に入れ、県庁各部局や県内市町村また東京湾アクアラインを活用した推進連絡協議会から千葉県の魅力情報（観光、物産、催し、サービス等）を集め、ちばアクアラインマラソンの情報にあわせて発信します。また、千葉県の魅力を紹介するイベントや活動等を、実行委員会、県庁各部局、市町村、団体等で連携・協力して実施します。

それにより、大会の来場者に満足感を与えるとともに、南房総、千葉県を再度訪れ、観光や県内各地で行なわれる市民マラソンやイベントに参加してもらう機会とします。

また、大会開催には、開催市町や関係団体と一体となり、企画・運営等のシステムを構築することが必要となることや、県内から３，０００人を超えるボランティアの協力が必要なことから、県民の「みるスポーツ」・「するスポーツ」・「ささえるスポーツ」のそれぞれの機会を提供するスポーツイベントとして、今後の在り方を検討してまいります。

出典：千葉日報社提供

・ツール・ド・ちば

平成１８年度から開催しており、房総半島の潮風を全身に受けながら美しい海岸線から丘陵へとバラエティーに富んだコースを自らの体力と気力で走ることを目的とし、スピード競技ではなく、交通法規と大会規則を守り、完走した人を賞する大会です。

・サイクルツーリズムの推進（☆ 新規事業）

全国一平均標高が低く、首都圏にありながら豊富な観光資源に恵まれた千葉県はサイクリングを楽しむには絶好の環境にあります。

県では、こうした環境を活かして多くのサイクリストの方々に繰り返し本県を訪れて、サイクリング観光を楽しんでもらえるようにしていくことを目指して、

サイクルツーリズム推進キャッチコピー＆ロゴ

「サイクルツーリズム」を推進しています。

・２０１２ＡＳＴＣトライアスロンアジア選手権館山大会（☆ 新規事業）

毎年各国の各都市で行われるトライアスロンアジア選手権が平成２４年４月に館山市で開催されます。トライアスロンはアメリカで生まれたスポーツで１人が連続して３種目の競技（スイム・バイク・ラン）を行うハードなもので、別名「鉄人レース」といわれています。

今大会は、平成２４年のロンドンオリンピックアジア大陸別の代表選考も兼ねており、日本をはじめとするアジア２５カ国から約１，０００人の選手が参加します。大会のテーマは「日本を元気に！」。東日本大震災による風評被害を払拭し、館山から海を含めた日本の安全をアジア、そして世界へ発信します。

イ　県外の大学生や高校生のスポーツ合宿等の誘致（☆ 新規事業）

合宿等の誘致を行う県内自治体や関係団体等と連携し、学校関係者の合宿視察・体験ツアー事業の実施や合宿等への支援検討など、県外の大学生や高校生のスポーツ合宿・キャンプ等の誘致の推進を図ります。

ウ　地域のスポーツ情報提供

地域で開催されるスポーツ大会、スポーツイベント、スポーツ教室・セミナー等、スポーツに関する情報を一元的に提供し、県民のスポーツへの幅広い参加を推進します。

（３）国体開催を契機としたスポーツの拠点づくり（☆ 新たな施策）

①　現状と課題

県内各地で開催されるスポーツイベントは、愛好者の日常的なスポーツ・レクリエーション活動の成果を発表する場、日頃スポーツに親しむことのない人がスポーツをはじめるきっかけとなる場、イベントの参加者相互や地域住民との交流の場などの機能を有しています。そのため、スポーツイベントの充実を図ることは、スポーツに親しむ県民の増加やイベント開催を通した地域の活性化にも寄与することが期待されます。

ゆめ半島千葉国体・千葉大会では、本県選手をはじめ両大会のマスコットキャラクター「チーバくん」[23)]や、おもてなしの心のこもったボランティアの活躍により、全国各地に千葉の魅力をアピールすることができました。

このような大規模スポーツイベントの開催には、競技会場の整備や競技運営に必要な財源の確保、また、関係市町村、競技団体、民間企業、報道機関等との協力体制の確立など、周到で長期的な準備が不可欠です。

そのため、ゆめ半島千葉国体の開催ノウハウ等を活かし、大規模大会の企画・計画・運営等のシステムを構築し、関係市町村や関係競技団体等と一体となった取り組みが必要です。

全国規模の大会を県内で開催することにより、県民のスポーツに関する意識を高め、「するスポーツ」だけでなく、「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」といった形でスポーツに参加する機会を提供することができます。

また、大会規模や参加選手によっては、県内外から多くの集客を図ることができ、

地域経済にも大きく貢献することから、本県で開催される全国規模の大会等については、その目的や効果等を踏まえつつ協力や支援をします。

② 取組の方向性

ア　国際大会や全国トップレベル大会の誘致
イ　交流機会の創出とボランティア活動の推進
ウ　子どもたちの観戦促進

③ 具体的な取組

ア　国際大会や全国トップレベル大会の誘致

・青木半冶杯国際千葉駅伝

青木半冶杯国際千葉駅伝は、１９８８年に第１回大会が開催され、２０１２年で２４回目を迎えます。第１９回大会からは「国際大会として世界初の男女交互にたすきをつなぐレース」となり、世界のトップランナーが集う国際駅伝大会として、国内外に定着し、本県のスポーツ推進や国際的なイメージアップに大きく貢献しています。多くの県民に選手への応援や、世界のトップランナーの走りを間近で見る機会を提供するとともに、審判や運営補助などに小学生から大人まで約４，０００人がボランティアとして参画するなど、「みるスポーツ」・「ささえるスポーツ」として親しまれ、県民の健康づくりや体力向上への関心を促進しています。

・千葉県民体育大会

本大会は、昭和２３年から６０年の歴史を有し、県内各郡市体育協会の代表が力と技を競う、本県最大の競技スポーツの祭典として多くの県民に親しまれています。「ゆめ半島千葉国体」開催のため平成２１年・２２年の２年間休止しましたが、国体開催を契機に、広く県民の間に普及したスポーツを、県民の健康の増進と体力の向上を図りながら県内各地に推進し、地域文化の発展に寄与するとともに、県民生活を明るく豊かにすることを目的に掲げ、平成２３年度に第６１回大会として再開されました。

・平成２６年度全国高等学校総合体育大会（総合ポスター図案）[24)]

平成２６年開催の「全国高等学校総合体育大会」において、観戦の仕方や競技の楽しみ方を周知するための工夫をし、体験コーナーを設けるなどスポーツに触れることのできる機会を作ります。また、高校生をはじめとする多くの県民が大会の準備・運営等の活動に主体的に参加することから、世代を超えた様々なふれあいを通じて大きな感動や達成感を味わい、スポーツの重要性に対する関心と理解を深められることを目指します。

さらに、本県で開催される８競技会場を拠点に、全国から集まる来県者が「千葉の魅力」に触れることのできる様々な場面を提供し、地域の活性化を図ります。

・ちばアクアラインマラソン【再掲】

イ　交流機会の創出とボランティア活動の推進（☆ **新規事業**）

・ボランティア参加者の開拓と拡大

県民がスポーツボランティアとして活動することは、個人のスポーツへの興味・関心を高めるとともに、生きがいづくりや職種、世代を越えた交流の輪の拡大にもつながることが期待されています。

県のホームページや県・市町村の広報誌等を活用して、スポーツボランティアの活動内容や募集情報を紹介することにより、ボランティア未経験者への動機づけや意識啓発を図り、ボランティア活動への参加者を開拓・拡大します。

また、スポーツ少年団等に所属する子どもたちのボランティア活動への参加を促進します。

・研修会の開催

関係団体等と連携し、ボランティア活動に必要な知識や技能等を身につける「スポーツボランティア研修会」（仮称）の開催に向けて検討します。

・ボランティアの登録

研修会修了者やスポーツボランティア活動に理解と意欲がある人を登録する「千葉県スポーツボランティアバンク（仮称）」の設立に向けて検討します。

ウ　子どもたちの観戦促進（☆ **新規事業**）

子どもたちがトップアスリートの卓越したパフォーマンスを身近に観戦できるよう、大会を主催する関係団体等へ働きかけをします。